



「東北で大地震があったもよう。出勤に備えてください」

震災直後の3月11日午後3時すぎ、国の要請を受けた県医療推進員は災害派遣医療チームDMATを持つ県内5病院に電話した。翌朝には装備を整えた医療チーム22人が大阪・伊丹空港を離陸。岩手県の避難所などで救命医療に当たった。

これまでに死者1万5841人、行方不明者3490人、避難者33万人超という未曾有の被害をもたらした東日本大震災。それに伴う巨大津波や福島第1原発事故が被害を増幅した。

これに対し、国を挙げての支援活動は素早かった。岡山では11日以降、県警や消防援助隊、県内

東日本大震災



被災地でがれき撤去のボランティア活動に取り組む県内の大学生＝8月26日、岩手県大槌町

に駐屯する陸上自衛隊、自治体職員、市民ボランティアが陸路、空路で岡山を出発。津波が襲った

県内でも支援の輪次々

沿岸部の集落周辺での不明者捜索、避難者のケア、家屋のがれき撤去などに従事。県の化学専門職員は福島第1原発から半径30km圏で放射線測定に当たった。現地入りしたティエが陸路、空路で岡山を出発。津波が襲った

県民による支援の輪も高まりを感じた」と振測も公表。市町村や県民に広がり、さまざまな物資や義援金が寄せられた。毛布やタオル、おむつなど167人に上った。2011年も残りわずか。東日本大震災では日本全体が災害への危機感を新たに、林原の経営破綻は地域経済に大きな衝撃を与えた。一方、倉敷子ボリ公園跡地に大型商業施設がオープンし、多くの集客が期待される。さまざまなニュー

円に達した。同県支部は海の2地震に東海も加え「役に立ちたい」「助けた3地震が連動発生した」という県民意識。場合、津波被害の独自予の1年を振り返る。

記者メモ

その理由を聞くと、「知状が垣間見える。放放射性物質が不安、自らの仮設住宅では高齢者宅が全壊した、働き口がない……さまざまな思いを抱えて住民が地元を離れている。コミュニティは崩壊の危機に配される」「元々が専門さらされている。被災者は再び厳寒期を迎えて悲しみが逆戻りしていると医療ボランティア・AMI」。復興が叫ばれ、震災被害は元通りさまだ確実に続いている。(小畑誠)

程遠い被災地の「復興」

被災地の沿岸部では住宅周辺などがれき撤去が進み、ハード面を担った消防や自衛隊などの県内勢はほぼ配された。「元々が専門さらされている。被災者は再び厳寒期を迎えて悲しみが逆戻りしていると医療ボランティア・AMI」。復興が叫ばれ、震災被害は元通りさまだ確実に続いている。(小畑誠)